



特定非営利活動法人

防災士会みやぎ

MIYAGI BOUSAISHI ORGANIZATION

Vol.14
2019.9

《新役員の紹介号》

残暑お見舞い申し上げます。連日、暑い日が続いておりますが、会員の皆様、如何お過ごしでしょうか・・・？

令和元年度定時総会でご承認頂きました新理事および理事会の互選で役職に就いた方々の挨拶を電子版でお届けいたします。

先般発行Vol.13に原稿が間に合わなかった事から電子版としました。(掲載は五十音順)



➤ 就任に当たって

新副理事長 高橋健一

東日本大震災時に避難所運営のお手伝いさせて頂き、よりよい避難所運営のあり方や、防災・減災に向けての取り組みについて学び、私たちと同じ苦しい思いを体験する人が少しでも減らすことができればという思いから防災士になりました。

今回は、副理事長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

まだまだ「防災士」や「防災士会みやぎ」の知名度は低いように感じています。様々な場面での活動を通して広報しながら、実績と知名度を上げ、会員の皆様が更に活動しやすい環境づくりをしていきたいと思えます。山下中学校教師と並行しての活動になりますので、なかなか時間が確保できませんが、精一杯取り組む所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



➤ 就任に当たって

新副理事長 若生 彩

この度、大役「副理事長」を仰せつかりました若生彩です。微力ではありますが、一生懸命、取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

特に、今年も2回目となります宮城県からのフォローアップ講習の自治体訪問・調整に、精力的に取り組んで行きたいと考えております。会員の皆さんには、補助者や見学でも結構ですので、是非、講習風景を味わって頂きたいと思えます。各地の防災指導員の皆さんの考え方や防災への取り組み姿勢等を体感頂きたいと思えます。

南は「丸森町・角田市」に、北は「登米市や美里町・大崎市」と、県内バランスよく各地で開催されます。最寄りの会場に、是非、足をお運び下さい・・・！お待ちしております。

どうぞよろしくお願いいたします。



➤ 就任に当たって

新理事 阿部 馨



防災士会みやぎの会員の皆様、新理事の阿部でございます。
私は、国土交通省国土地理院に勤務し、主に測量の基準やGPS観測網の整備、地理空間情報(GIS)の普及啓発等を推進してきました。また、地震や火山活動に伴う地殻変動の観測や、阪神淡路大震災(1995)東日本大震災(2011)等の自然災害対応、復興・復旧支援等に従事してきました。この経験から、「自分の命は自ら守る」意識と行動を地域で協同・共有することが防災・減災の一步と思っていました。

私は、防災講話を行う前に、地域の地理・地勢等や過去の自然災害等を調べるようにしています。また、各地の災害から学ぶものが多々あります。特に、避難して「助かった命」が、避難所生活が続き「助かる命」が失われる「二次関連災害犠牲者」が多い事です。熊本地震(2017)では直接死50名でしたが避難後に約200名の方々が亡くなりました。大規模災害が発生し避難後に亡くなる方は、高齢者や女性に偏る傾向が認められ「避難後の命を守る」ための話を行っています。

私は、防災講話の機会を利用して、防災・減災の地域のハザードマップの整備方法、活用方法や更新方法等を促進に加えて、「自助・共助・公助」に「地域力」の必要性を話しております。

会員皆様方の豊富な知識、経験などの力を頂きながら地域の防災・減災や人材育成、地域防災計画やハザードマップ作成等に微力ではありますが活動して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

➤ 就任に当たって

新理事 門脇恒男



新理事に就任いたしました元理事の門脇です。

防災士取得は、平成18年とだいぶ過去になりましたが、自己啓発に努め、微力ながら、一意専心、頑張っまいますので、よろしくお願い致します。

防災士との出会いは、10数年前山形勤務時代にNHKテレビに出演していた気象予報士の方が、防災士資格をお持ちだったことに刺激され、3日間、仙台まで講習の受講に足を運び、取得しました。その後、防災士資格は、職場環境の整備に、大変良い資格であることから、1年間で30名の社員に社外講習という位置づけで、取得して頂きました。仙台に転勤した際も、それぞれの職場で合計約40名近くの社員に取得して頂き、各地で活躍していることと思います。

今度は、気象予報士に挑戦し、最近の気象現象と災害等の関係を解り易く解説できたらなどと考えております。よろしくお願い致します。

➤ 就任に当たって

新理事 佐藤和弘



新理事に就任しました佐藤和弘です。

近年、多発する地震災害、ゲリラ豪雨などの異常気象その様な中、「助けられる人」から「助ける人」になりたく、防災士を目指し、活動を進めて参りました。

今後も自己研鑽を積み、地域の皆様とともに、防災・減災活動に努めて参ります。

よろしくお願いいたします。



➤ 就任に当たって

新理事 久光保夫

令和元年度総会にて、理事に就任いたしました久光保夫です。

私の働いている郵便局では、安心・安全の拠りどころとして地域貢献に努めているところです。郵便局長の8割が、防災士認定を受けており、幅広い活動を通じて、地域の方々と交流を深めています。

また、防災士会みやぎが、大崎市と自治会自主防へ防災指導員派遣契約を結んでおります。訓練派遣は、講師と補助者で構成され、多くの訓練に人員が不足する状況でした。そこで、派遣要請に応える形で登録防災士局長+地元局長を含めて補助者として2年前から活動を始め、年間10会場の訓練に述べ27名を派遣しております。住民の皆様からも「地元の局長が防災士で安心、頼りになる」との声も頂いております。今年度は、講師に挑戦するという目標を掲げ、メンバー一同勉強中です。

これからも、様々な活動を通して、地域の防災意識向上に貢献し、安全・安心の町を築いて行くことを念願し、就任の挨拶といたします。



気象一口MEMO 「ゲリラ豪雨」と「雨の強さと降り方」

〔参考文献：気象庁ホームページ〕

最近、よくテレビや新聞で目にする「ゲリラ豪雨」。局地的な短時間の豪雨で被害をもたらす、予測困難で突然襲いかかるため、この名がついた様です。既に70年代からこの言葉はあった様ですが、近年このタイプの集中豪雨が多い事から盛んに使われるようになりました。

ゲリラ豪雨は、発達した積乱雲が原因で、地表付近の暖かく湿った空気が上昇して急に冷やされ、大雨をもたらします。1時間に100mm以上の猛烈な雨になることもあります。地球温暖化による異常気象、都市部ではヒートアイランド現象も一因と考えられています。



【雨の強さと降り方】

1時間雨量 (mm)	予報用語	人が受けるイメージ	災害発生の危険性
10以上20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20以上30未満	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川が溢れ、小規模の崖崩れが始まる。
30以上50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
50以上80未満	非常に激しい雨	滝のように降る (ゴゴゴと降り続く)	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖感を感じる	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

発行 特定非営利活動法人 防災士会みやぎ

■発行者 理事長 児玉敏幸

広報部 門脇恒男・若生 彩・繁野みどり

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地

みやぎNPO プラザ内 No.22

連絡先：080-1821-0335

情報・ご意見はメールでお願いします。 jimukyoku@bousaishi-miyagi.org

